

子ども水道新聞

2021春号

令和3年

発行 日本水道新聞社(日本水道新聞)
〒102-0074 東京都千代田区九段南4-8-9
☎03-3264-6721 http://www.suido-gesuido.co.jp

企画編集協力
公益社団法人 日本水道協会



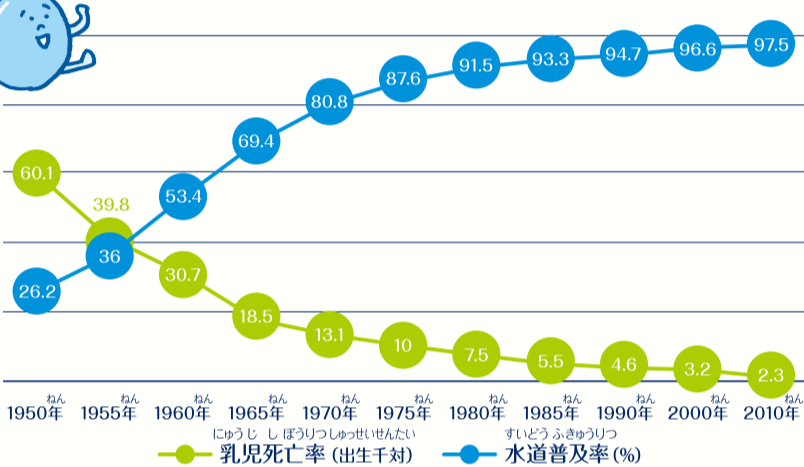
3月22日は国連「世界水の日」

世界の水 日本の水を考えよう



安全な水が大切だよ!

日本の乳児死亡率と水道普及率の推移



厚生労働省の公表データから作成

なるほどポイント

水道水で手洗い・うがい

水道水による手洗い・うがいを習慣にしましょう。日本の水道水には、消毒効果のある塩素が入っており、手洗いやうがいは新型コロナウイルスの感染やかぜの予防につながります。もちろん、水道水中の塩素は、安全な濃度に保たれています。このように入念に管理された高品質な水が、蛇口をひねれば簡単に大量に、それも経済的に使えることは世界から見ても珍しいことです。

予防で健康を守る
新型コロナウイルス感染症の流行で、「感染予防」という言葉をよく聞きます。「予防」は健康を守るために重要な取り組みです。ユニセフの「世界子供白書2019」によると、出生1000人当たり亡くなる乳児(1歳未満)の数は地域等で差があります。日本では2人ですが、50人を超えている国・地域もあります(2008年時点)。

子どもが亡くなる原因の一つと考えられるのが、「公衆衛生」が不十分であることです。私たちは病気になる病気を予防し、住むところをきれいに保つための社会の仕組みです。上下水道の仕組みも「公衆衛生」の一つです。

グラフを見ると、日本でも昔はたくさんの子どもが亡くなっていたことがわかります。同時に、水道が普及したところに、乳児死亡率が下がっていったことが読みとれます。

もともと日本の近代的な水道は、明治時代に、コレラなどの病気の流行をとめるため、管理された安全な水が使えるよう普及し始めました。飲み水や料理の水だけでなく、手洗い、歯みがき、お風呂、洗濯、そうじなど、みなさんも毎日水道のお世話になっていると思います。

日本の水道がピンチ?
しかし日本の公衆衛生に貢献してきた水道も、危機を迎えつつあります。水道管などが古くなって壊れやすくなったり、水道を管理する職員の数が減らされる傾向にあるからです。これまでであった水道が使えなくなると、不便になるだけでなく、衛生状態が悪くなりえます。それはとても困るので、対策が必要です。これは水道水を使う人全員で向き合わなければならぬ問題です。

このニュースは国立保健医療科学院浅見真理先生に話を聞きました

浅見先生は国立保健医療科学院で働いています。科学院は、保健医療や、生活衛生、社会福祉について研究・調査をしたり、これらに携わる仕事をする人たちへの教育・指導をしたりする国の機関です。水道も扱うテーマの一つです。

浅見先生は、「水道の仕事は、人々の生活や健康を守る重要性が高いものです。しかし日々新しい課題と直面していて、継続的な調査研究が必要です。この先も、日本のどこであっても安全な品質を保った水道を使い続けていけるようにするためには、今から水道を使うみんな考えていくことが重要です」と話しています。



毎日使う水道水がどこから来て、どのように作られるのか、私たちが知らしを支援しているかを知ることが、将来の水道が使えるための大事な一歩です。